



愛媛大学の全学的な取組

「学生中心の大学」「地域にあって輝く大学」を目指して
—— 平成 18 年度に係る業務実績報告書の要点 ——

学長のリーダーシップの下、機動的・戦略的な大学運営

学長は、2 期目のスタートに当たり、愛媛大学憲章に基づき、平成 18 年度から実施する 5 つの重点課題を明確に示し、それらを教職員の一体化を図る組織機構改編の中で推進した。

その成果の特徴的事項は、1. 自律的管理運営体制の強化 2. 教育改革の組織的展開 3. 地域貢献、国際交流の推進 が挙げられる。

愛媛大学の 5 つの重点課題 2006～

- 第一 学生中心の大学を作り上げていく
- 第二 世界レベルの研究をより一層活発に展開し、研究の質と規模を確保する
- 第三 地域にあって、地域の活性化に努め、地域住民に貢献する大学の方針を確立し、そのための諸課題を実践する
- 第四 先進諸国の研究拠点と連携するとともに、とりわけ援助の手を求めている東南・南アジアを中心とする開発途上国への支援を展開し、これらの国々から尊敬される国際的な地位を確立する
- 第五 以上の諸課題を力強く実施する主体として、国立大学法人愛媛大学の自律的運営体制を確立し、さらに財政基盤を強化する

1. 自律的管理運営体制の強化

○組織機構の改編

- ・「先端研究推進支援機構」の設置
研究センターを中核とした先端研究の戦略的統括・支援
- ・理事の担当職務の見直し
- ・学長特別補佐 2 名の増員（学術・国際交流担当、企画担当）

○学長のリーダーシップを支える組織

- ・経営政策室：競争的資金獲得戦略、「愛媛大学科学研究行動規範」の策定
- ・経営情報分析室：中期計画の評価指標作成、財務データ分析
- ・自己点検評価室：「教員の総合的業績評価」の検証、認証評価の受審準備
- ・理事主宰の WG の設置による効率的な意思決定（教員組織に関する WG 等）

○戦略的資源配分の拡充・評価

- ・学長裁量経費の確保（1.95億円）・活用
- ・透明性・公平性を確立した重点配分
研究開発支援経費（1.1億円）、公開ヒアリング、研究成果シンポジウム
教育改革促進事業（愛大 GP 2,500万円）、教育経費の重点配分
- ・プロジェクト経費の研究成果の評価・検証

○戦略的・効果的な人的資源の活用の拡大

- ・学長裁量定員の確保・活用
防災情報研究センター 教授1名（2年任期）、
総合健康センター 助教授1名（産業医）
他機関との人事交流 教授1名（1年任期付き） 総数 23名の配置
- ・職員の新人事評価の試行
民間手法による評価者研修の実施
- ・FD/SD/TAD三位一体型能力開発（平成18年度特色GP採択）
新しいSD研修（プレゼンテーション研修・リーダーシップ研修）

○財務内容の改善・充実

- ・外部資金獲得支援，科学研究費補助金申請支援
- ・病院経営の改善
診療科毎のマニフェストの策定と実践（インセンティブの付与）
（財）日本医療機能評価機構による評価受審（Ver.5の認定）
地域がん診療連携拠点病院（「腫瘍センター」の新設）
「再生医療研究センター」の新設 **資料1**
- ・「愛媛大学総人件費の削減計画」に基づく具体的な削減計画の策定
人件費削減計画の実施，教員定年後の1年間不補充 → 2.8億円削減（削減率2%）

○施設整備計画及びマネジメント等の新たな取組

- ・大学のトップマネジメントとしてマネジメント体制の強化
学長を委員長とする「施設マネジメント委員会」の設置
- ・施設改修5カ年計画の策定 **資料2**
- ・学生の自習室改善計画の策定
- ・本学の主要施策に則った既存施設の有効活用
防災情報研究センター，国際交流センター等のスペース確保

○危機管理への新たな対応

- ・危機管理室を中心に「防災マニュアル」（原案）の策定
- ・啓発活動として「危機管理セミナー」の開催
- ・「科学研究行動規範管理規程」の策定，安全衛生教育の充実
- ・研究費の不正使用対策への取組
愛媛大学の研究費等の運営及び管理等の基本方針，「不正使用防止規程」

2. 教育改革の組織的展開

○教育方法等の改善

- ・教育企画室の設置（FDの企画・実施の中心的役割）
個別ニーズに対応した多様なFDプログラムの実施
（FDスキルアップ講座，教育ワークショップ，授業コンサルティングサービス等） **資料3**
- ・教育改革を主導する「教育コーディネーター」の全学配置
- ・学長裁量経費による教育改革促進事業「愛大GP」の創設
教育の高度化・活性化の推進（教育コーディネーター等の活動支援）
個別ヒアリング，教育改革シンポジウム（進捗状況の評価・検証）
- ・大学院教育の現状と課題「大学院教育の在り方に関する検討WG」
- ・入学試験改革（AO入試の拡大，平成19年4月「アドミッションセンター」の設置）

○特色ある教育プログラムの実践

- ・「FD/SD/TAD三位一体型能力開発」（特色GP採択）
- ・「瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育」（現代GP採択）
- ・「1年制大学院が地域の特別支援教育を変える」（教員養成GP採択） **資料4**

○学生支援の充実

- ・就職支援・キャリア支援の強化 **資料5**
就職指導会議の設置，就職支援プログラムの充実
就職支援バスの運行，ホームページに「就活なんでもQ&A」を開設
学生ボランティア（キャリア・サポーター）
社会人との交流会の企画・運営，学生の目線に立った「キャリサポ新聞」の発行
- ・身体に障害のある学生の修学支援
障害者修学支援委員会，キャンパス・バリアフリー推進室の設置
障害学生支援ボランティア（ノートテイクとして約100名の学生が登録）

○教育研究活動の推進・環境整備

- ・3先端研究センターを中核とした世界レベルの研究を推進 **資料6**
「化学物質の環境科学教育研究拠点」グローバルCOEプログラム採択
- ・研究成果の社会還元を通して地域貢献を目指す **資料7**
「防災情報研究センター」，「再生医療研究センター」の設置
- ・若手研究者の育成・支援
「研究開発支援経費」の学内公募資格を大学院生・ポスドクに拡大
- ・女性教職員の勤務環境の改善
医学部キャンパス内に保育所「あいあいキッズ」を開設（平成19年4月）
男女共同参画推進委員会の設置（平成19年4月）
- ・「設備整備マスタープラン」の策定
共有設備，基盤研究整備

3. 地域貢献, 国際交流の推進

○愛媛県, 県下3市との連携協定に基づく施策の展開

- ・サテライトオフィスの活用, 地域防災教育の実施
- ・「南予活性化対策協議会」の設置
- ・南予9市町において「南予地域活性化総合セミナー」の開催,

資料8

○「国際交流センター」の設置(平成18年4月改組)

- ・一元的な国際交流事業の推進, 学生の海外派遣プログラムの充実

○「愛媛大学サテライトオフィス・カトマンズ」(カトマンズ市内に設置)

- ・ネパールの防災研究
- ・世界遺産周辺の地盤調査 (アジアの開発途上国支援)

資料9

4. 開かれた大学運営

○外部有識者の積極的活用

- ・経営協議会学外委員からの意見を大学運営に反映

教育改革促進事業(愛大GP)の審査委員に経営協議会学外委員を委嘱
広報経費の重点配分 → 全学的な入試広報パンフレットの刷新
事務系職員の新人事評価制度の試行

- ・民間企業役員経験者の登用(社会連携担当理事)

○監査機能の充実・指摘事項に対する改善

- ・既存施設の点検・評価及び有効活用への取組 → 共有建物として再構築
- ・事務系業務の見直し → 「業務支援室」の設置

○情報公開の促進

- ・愛媛大学広報番組のラジオ放送開始, 研究者紹介CD作成
- ・大学の活動をわかりやすく紹介する冊子「新しい大学の創造」の発行
- ・ホームページの充実(随意契約に関する情報公開, 教育企画室, 環境管理)

平成 17 年度に係る業務実績の評価結果に対する改善

平成 17 年度に係る業務実績の評価結果について、国立大学法人評価委員会からの指摘事項は特になかったが、学内で評価結果の共有化を図り、担当理事を中心とした全学体制で平成 16 年度の指摘事項のさらなる改善を図った。

また、自己点検評価室からの提言、学生からの要望に基づき、学生中心の大学作りのための取組を充実させた。

1. 学生中心の大学作りのために学生の声を反映

○学生の授業評価、卒業時のアンケート調査の分析と活用

○自己点検評価室からの全学的な提言

- ・学長への意見箱「くるま座 e-ねっと」に対する迅速な対応
- ・「学生代表者会議」（平成 19 年 4 月設置）

○学生からの要望

→「キャンパス・バリアフリー推進室」の設置

2. 法人評価委員会の期待事項への取組

○教員組織の改編への取組

- ・「先端研究推進支援機構」、「防災情報研究センター」等の設置
- ・全学的な重点課題に沿って新たに教員を配置

○外部資金獲得への取組

- ・「社会連携推進機構」の機能活用・地元金融機関（2 銀行）との連携協定
→ 受託研究費（約 4,500 万円）と寄附金（約 2,900 万円）の増加
- ・科学研究費補助金に関する説明会（科学研究における行動規範、不正使用防止）
各学部の学術研究委員会において研究計画調書作成指導（新規採択率 2.7%増）

○広報体制の強化

- ・広報担当の副学長を中心に新たな広報活動の展開
- ・広報戦略を企画する「広報室」と各部局の連携強化
- ・「学長定例記者懇談会」において、積極的な大学情報の発信

○防災マニュアル(原案)の策定

- ・防災情報研究センターの指導により、より学生の視点を考慮した再検証

学生中心の大学をつくる

大学は本来、学生がいて、それを教える教員がいて、学術・文化を継承発展させるための教育・研究が行われるところである。それを円滑に進めるために事務・技術職員や管理職員が管理運営を行っている。学生中心の大学づくりとは、愛媛大学憲章のなかで謳っているように、「大学が次代を担う若い世代を育てる教育機関であるという原点に立って、教育機能を充実させ、学生が入学から卒業まで安心して充実した大学生活を送ることができ、その中で自立した個人として社会で生きるために必要な能力を修得できる教育環境と条件を整備すること」を優先的に実施することです。これはごく当たり前のことですが、このことを大学憲章のなかであえて明記し、確認する必要があるのは、これまでの国立大学に「研究優先教育は二の次」、「学生に關係することは後回し」の風潮が無きにも非ずであったからです。

愛媛大学が「学生中心の大学づくり」のために取り組む当面の中心的課題は、学士課程教育の中味を変える改革と、大学院教育の改革の推進です。今年の4月には、教育改革を主導する役割をもつた53人の教員が「教育コーディネーター」として全学に配属されました。教育コーディネーターの役割は、学部や学科の教育目標に合わせて入学時の初年次教育からキャリア教育を含む学士課程教育全般、就職・卒業までの教育を体系化し、個々の授業の内容と方法を改善していくために、学部学科の教育改革を推進することです。

教育の改善改革はいつの時期でも常に取り組まなければならない課題ですが、今とくに強調されるのは理由があります。私たちの社会は、少子化の進行とともに大学全入時代に入り、いまや二人一人は大学に行く時代です。それに伴って教える内容も方法も変えて行かなければなりません。学生たちが育つて行く社会がどうなるかも視野に入れる必要が起ります。世界的に社会は今、大量生産・大量廃棄の工業生産社会から環境に調和した循環型社会への移行を実現させなければならない変革期にあります。また、我が国は長い間の「偏集中化の結果、すっきり解消してしまつた地方の再生と活性化を回ることが喫緊の課題になっています。このための人材育成が強く求められる一方、グローバル化の進展の中で、世界的に活躍できる能力の育成が求められています。

私たちはこれからの社会を担う学生をどう育てるかを常に意識しながら、教育改革を進めているところであります。

平成18年9月

愛媛大学長 小松正章



小松正章 Komatsu Masayuki

愛媛大学憲章

愛媛大学は、平成16年4月1日に国立大学法人愛媛大学となり、国の組織から独立した経営体として再出発することになった。愛媛大学は、学校教育法に謳われた大学の目的を踏まえ、自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする。とりわけ、地域に立脚する大学として、地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材の養成がこれからの主要な責務であると自覚する。知の創造と知の継承を担う学術拠点として愛媛大学は、基本目標を以下に定め、全構成員の指針とする。

1 教育

愛媛大学は、学生が豊かな創造性、人間性、社会性を培うとともに、自立した個人として生きていくのに必要な知の運用能力、国際的コミュニケーション能力、論理的判断能力を高める教育実践する。

愛媛大学は、地域・環境・生命に関連する教育に力を注ぎ、地域の現場から課題を発見し解決策を見いだす能力を育成する。

大学院においては、人間・社会・自然への深い洞察に基づく総合的判断力と専門分野の高度な学識と技能が身につく教育を実施する。

愛媛大学は、学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができる学生支援体制を築く。

2 研究

愛媛大学は、基礎科学の推進と応用科学の展開を図り、知の創造と知の統合に向けた学術研究を実践する。

愛媛大学は、地域にある総合大学として、もてる知的・人的資源を生かし、地域・環境・生命を主題とする学術研究を重点的に推進する。

愛媛大学は、先見性や獨創性のある研究グループを組織的に支援し、世界レベルの研究拠点形成を目指す。

3 社会貢献

愛媛大学は、学術研究成果の還元と優れた人材の輩出を通して、社会の持続可能な発展、人類と自然環境の調和、世界平和に貢献する。

愛媛大学は、産業、文化、医療等の幅広い分野において最高水準の知識と技術を地域に提供するとともに、地域の諸課題の解決に向けて人々とともに考え、行動し、地域社会の自律的発展に貢献する。

4 大学運営

愛媛大学は、相互に協調し啓発しあう人間関係を基調とした知の共同体を構築し、構成員の自発的・主体的活動を尊重する。

愛媛大学は、大学の特性と現状の批判的分析の上に立って明確な目標・計画を定め、機動的で戦略的な大学経営を行う。

資料 1

再生医療研究センター（朝日新聞 平成 18 年 12 月 7 日）

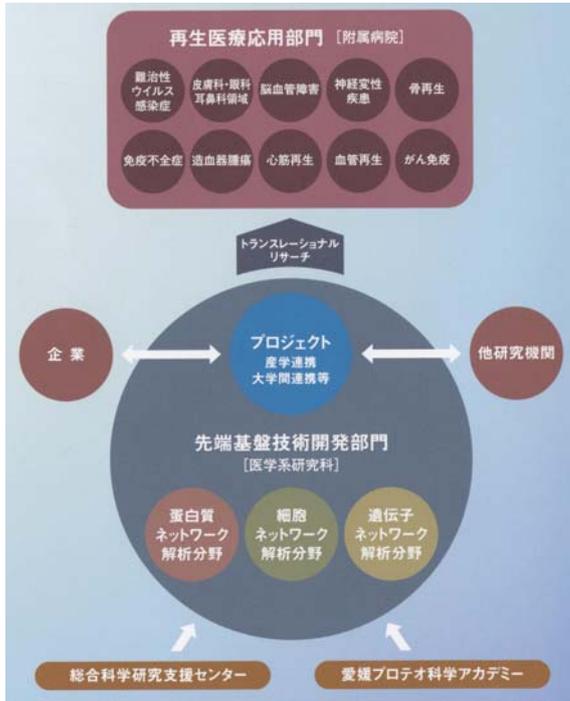
再生医療では、病気がけがで失われた器官や機能を修復する。同センターは、主に修復技術の基礎研究を担う「先端基盤技術開発部門」と付属病院の「再生医療応用部門」の二つに分かれる。先端基盤技術開発部門はさらに、遺伝子ネットワーク、蛋白質ネットワーク、細胞ネットワークの三つの解析分野に細分化されている。

同大学ではこれまで、体の様々な部分に分化する幹細胞を使った研究

愛媛大 再生医療研究センターがスタート 技術開発し臨床に活用

愛媛大学の小松正幸学長は6日、同大学大学院医学系研究科に再生医療研究センター（安川正貴センター長）を立ち上げたと発表した。すでに1日から一部稼働しており、今後2部門4分野で専属の教官を置くなどして再生医療の基礎研究と臨床応用に取り組むという。

再生医療では、病気がけがで失われた器官や機能を修復する。同センターは、主に修復技術の基礎研究を担う「先端基盤技術開発部門」と付属病院の「再生医療応用部門」の二つに分かれる。先端基盤技術開発部門はさらに、遺伝子ネットワーク、蛋白質ネットワーク、細胞ネットワークの三つの解析分野に細分化されている。

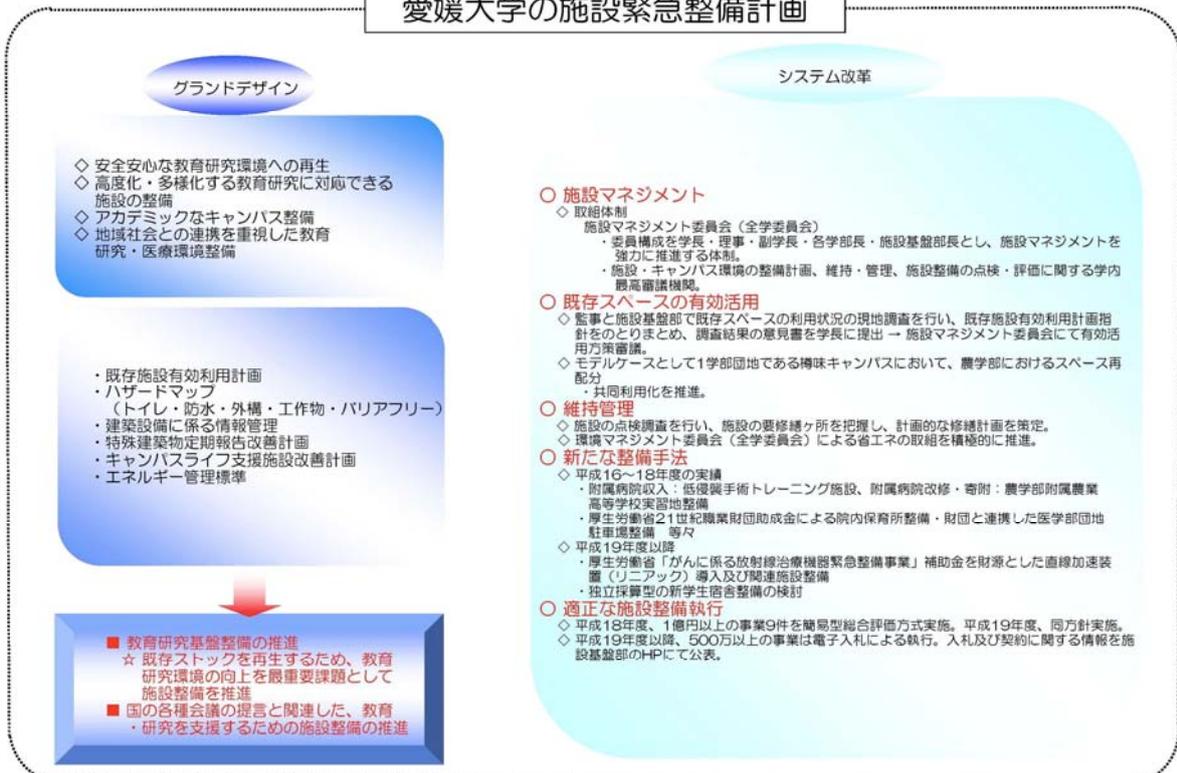


を、それぞれの分野で研究室などが独自に進めていたが、今回のセンター設立で、修復技術の研究開発のノウハウなどがセンターに集約され、情報交換や技術の普及などが効率的に進むことが期待できるといふ。

また、小松学長は、法文学部の村上恭通教授をセンター長とする「東アジア金属文化研究センター」と、大学院理工学研究所の谷口義明教授をセンター長とする「宇宙進化研究センター」を、来年度中に設置する意向を明らかにした。

資料 2

愛媛大学の施設緊急整備計画



資料 3

教育企画室（愛媛大学ホームページより）

施設・センター等

全学的な教育改革への取り組み

教育企画室

〒790-8577
松山市文京町3番
TEL: (089)927-8922

● キャンパスマップ ● 交通アクセス

■ 施設の理念
教育企画室(Office for Educational Planning and Research 略称:OPAR)は、教育・学生支援機構長の指示の下、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進することを目的として、2006年4月に設置されました。

■ 施設の概要
教育企画室では、下記の4つを業務の柱として活動しています。
1. 全学的な教育課題に関わる調査・研究
2. ファカルティ・ディベロップメント
3. 授業評価及びシラバス
4. 学生の学習を支援するシステム

■ ひとこと紹介
【FD/SD/TAD三位一体型能力開発】
教育企画室では、教員・事務職員・TAが、愛媛大学の理念と目標を共有し、一体となって能力開発に取り組むことで教育の質の向上を目指しています。ファカルティ・ディベロップメント(教員研修)、スタッフ・ディベロップメント(職員研修)、ティ・ブングアシスタント・ディベロップメント(TA研修)を連携させながら実施している点が特徴です。本取組は、平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されました。

資料 4

教育プログラムの実践

- ・ FD/SD/TAD三位一体型能力開発（特色GP）

愛媛大学の教職員能力開発体系

レベル	F D	S D	T A D
レベル I [導入]	新任教職員研修オリエンテーション		TA研修（共通教育） TA研修（専門教育）
	FD/SD セミナー		
	共通教育改善のための学生とのワークショップ		
レベル II [基本習得]	教育ワークショップ	新人研修プログラム 接遇マナー研修	TA ワークショップ
	FD スキルアップ講座		
レベル III [応用・発展]	授業コンサルティング 公開授業	中堅職員研修（プロジェクト研修） SD スキルアップ講座	スタディ・ヘルプ・デスク
レベル IV [創作・発展]	教育実践シンポジウム発表	教育学生支援部タスクフォース	
	大学教育実践ジャーナル投稿		教育実践ジャーナル投稿
レベル V [支援・指導]	教育ワークショップ講師 FD スキルアップ講座講師 授業コンサルタント FD ファシリテーター養成講座	SD スキルアップ講座講師	T A コーディネーター研修

・瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育（現代GP）

愛媛大学
「現代GP」瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育

取組内容
言葉の説明
活動状況
LINK
お問い合わせ
環境ESD
受贈生のページ
TOP PAGE

瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育
今こそ、時代が求める人になる・・・

TOPICS

- [2007.7] [第二回After-5_Seminarを開催します。](#)
- [2007.6] [第一回After-5_Seminarを開催します。](#)
- [2007.4] [2007年度前期環境ESDカリキュラムが始まりました](#)
- [2007.3] [愛媛大学現代GP取組報告書 Vol11ができました\(配布希望者はご連絡下さい\)](#)
- [2007.3] [愛媛大学GP取組紹介パンフレットができました\(まもなく公開\)](#)
- [2007.3.11] [愛媛大学環境ESDシンポジウムを開催しました。→パンフレットは右から](#)
- [2007.3.5-8] [環境ESD指導者養成講座I\(集中講義後半\)を実施します。](#)
- [2007.2.28] [愛媛大学環境ESDプロジェクト推進専門研究員\(非常勤\)を募集
中！<切2/28](#)
- [2007.2.15] [自然を守るセミナーを実施しました！ \[PDFファイル\]](#)
- [2007.1-2] [環境ESD指導者養成講座I\(フィールドワーク\)を実施中！](#)
- [2006.12.25-28] [環境ESD指導者養成講座I\(集中講義前半\)を実施しました](#)
- [2006.11.13] [愛媛大学「現代GP」ホームページレオパシ](#)
- [2006.11.10] [平成18年度「大学教育改革プログラム合同フォーラムII」に参加しまし
た！](#)
- [2006.11.08] [第2回ガイダンスを開催しました！](#)
- [2006.10.29] [環境ESD指導者養成講座IIのパンフレットができました](#)

[and more...](#)

環境ESDシンポジウム

2007年3月11日(日)に、環境ESD指導者養成講座受講生と学部講師によるシンポジウムを開催します。詳しくはPDFをご覧ください。

自然を守る仕事セミナー

2007年2月15日(木)に学外講師をお呼びして、自然を守る仕事について学ぶワークショップ形式のセミナーを行いました。詳しくはPDFをご覧ください。

環境ESD指導者養成講座I

平成18年度後学期 これまでごなかった講義が始まりました。講義の概要はPDFをご覧ください。

[>> 詳細はこちら](#)

愛媛大学21世紀ODE-GP

愛媛大学農学部附属演習林

愛媛のWeb-GIS

・1年制大学院が地域の特別支援教育を変える（教員養成GP）

新たに導入する地域連携補助システム

9



就職支援バスを運行しました

平成19年1月19日(金)～22日(月)の東京コースと1月26日(金)～27日(土)の大阪コースの就職支援バスを運行し、両コース合わせて、235人の学生が参加しました。

就職支援バスは、関東圏、近畿圏での就職活動を希望する本学の学生の就職支援と学部の枠を超えた学生への支援を目的として、愛媛大学校友会と愛媛大学が共同で実施しました。

東京コースは、参加する学生約80人を予定してバス2台を用意しました。東京コースは、車中2泊、現地1泊の強行日程のため、実際に参加する学生が少ないのではなかったかと不安もありましたが、最終的には、66人が参加しました。

1月20日(土)は、寒風吹き荒れるお天気でしたが、日本経済新聞社主催の合同企業説明会の会場となった東京ビックサイトは、意気込みに溢れた学生でいっぱい、1人で11社もまわった学生もいました。

20日の夜は、キャンパス・イノベーションセンターで、本学の関東地区在住の卒業生54人の方々と就職支援懇親会を開催しました。先輩方から進んで学生の中に受け込み、就職に関するアドバイスや経験談などを話して下さるなど、有意義な時間を過ごしました。



東京ビックサイト着いた学生



合同企業説明会(京セラドーム大阪)

また、大阪コースは、1月26日(金)と27日(土)の2日間、京セラドーム大阪で行われた毎日コミュニケーション社主催の合同企業説明会に参加するため、バス5台で169人の学生が参加しました。毎年2日間で約3万人が参加する会場は、スーツ姿の学生で溢れかえり、人気の会社のブースの前は、通路を塞いでしまうほど学生が並び、有名企業のセミナーも満席の状態でした。ここでも、学生の就職に対する関心の高さが伺えました。

この就職支援バスは、来年以降も実施する予定です。

広報室

EHIME UNIVERSITY 就職支援・キャリア支援

現在のページ: トップページ | 学生の皆様へ | 企業の皆様へ | お問い合わせ

就職支援・キャリア支援プログラム

愛媛大学就職情報システム

就職活動基本ガイド

就職支援に関するQ&A

ホームページで就職活動を 力強くサポート

就職支援・キャリア支援ホームページのリニューアル

教 育学生支援部就職課では、学生さんの就職活動をサポートするために、さまざまなサービスの提供を行っています。このほど、就職支援・キャリア支援ホームページをリニューアルし、タイムリーに情報発信しています。

http://info.ehime-u.ac.jp/careersupport/

世界に誇る研究

沿岸環境科学研究拠点

— 世界が注目する沿岸環境研究のメッカ —



沿岸海域の環境や有害化学物質による地球規模の汚染、海洋生態系のしくみや長期変動メカニズムについて研究しています。

過去40年間にわたり世界各地から収集した10万点にもおよぶ貴重な生物・環境試料や、宇和海沿岸を中心に展開している沿岸環境モニタリングシステムなどを基盤としています。平成14年度には、文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択、更に平成19年度には、「グローバルCOEプログラム」に採択され、この分野の世界的研究拠点として活動しています。

化学実験室(ダイオキシン分析)▶



地球深部ダイナミクス研究

— 地球の奥底を科学する —

超高压実験、第一原理計算、地震波解析などの手法を駆使し、世界でもトップレベルの地球深部科学研究拠点として、未知なる地球深部の物質構成・化学組成の解明に取り組んでいます。

国際共同研究を活発に行い、また、国際的に活躍できる人材を育成することにも力をいれているこのセンターは、世界中から注目を浴びています。



世界最硬ダイヤモンド▶
"HIME-DIA"

◀超高压実験室

無細胞生命科学工学研究

— 21世紀バイオテクノロジーの最前線 —

本学が世界に先駆けて開発した無細胞タンパク質合成技術を中心とした研究が、今、国際的な注目を集めており、多様な応用研究から新素材の開発、ゲノム創薬、テーラーメイド医療等への貢献が期待されています。最近、この技術を用いたマラリアワクチン研究を開始しました。

この無細胞タンパク質合成技術を利用した事業を展開するため、平成14年7月に大学発ベンチャー(株)セルフリーサイエンスを設立し、関連技術の普及、知的財産の活用等を通じて地域社会への貢献も期待されています。

簡易精製機能付全自動タンパク質合成装置ProtemistDT▶



資料 7

防災情報研究センター（広報誌 Line 27号 P17）



「『より良い国土づくり』を目指して」
 今後、自然科学と防災技術の融合から自然災害の実態を解明し、防災・減災のための科学技術を研究・開発していきます。

防災については、国土保全という観点から行政施策としてこれまで展開されてきましたが、

防災については、国土保全という観点から行政施策としてこれまで展開されてきましたが、

防災については、国土保全という観点から行政施策としてこれまで展開されてきましたが、

愛媛大学防災情報研究センターを設立

平成18年4月1日(土)、愛媛大学防災情報研究センターを設立しました。本センターは、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び域外社会に貢献することを目的として設立されました。防災情報研究センターには、災害救急医療・ケア研究部門、地域防災システム研究部門、社会基盤整備部門、アジア・地域防災情報ネットワーク部門の4つの部門があります。

愛媛県南予活性化への取組

広報誌 Line 28号 P21

愛媛県や自治体とタイアップし、南予を活性化

南予活性化対策協議会が発足

愛媛 媛県との連携協定に基づき開催された連携推進会議において、「南予地域活性化に向けた協力関係の構築」の決定を受け、「南予活性化方策」を調査研究するために、平成18年8月2日付けで「南予活性化対策協議会」を立ち上げました。今後、愛媛県や南予の自治体とタイアップしながら、農林水産業など南予活性化策を採っていくことになっています。

南予活性化セミナー 八幡浜市

毎日新聞 平成18年8月3日

愛媛大 南予活性化へ「対策協」

学部横断的な新組織設立

愛媛大は2日、学部横断的な新組織「南予活性化対策協議会」を設立した。樋口晋壮・社会連携担当理事を会長に法文、教育農学の名学部長と産学連携推進センター、成研究センターを中心とする。一次産業の発展やまちづくりを推進するため、地加、南予活性化へ多面的な研究教育活動を行う。あるかを探り、バイオマスの研究教育活動を行う。当面は農学部や地域創生部、水産部、植物

工場部など約10の下部組織を作って研究をする。小松正幸学長は「南予は高齢化や過疎が進み、多くの課題を持つ地域社会の代表例」と説明。地

南予活性化対策協議会の設立を発表する小松正幸・愛媛大学長（左）

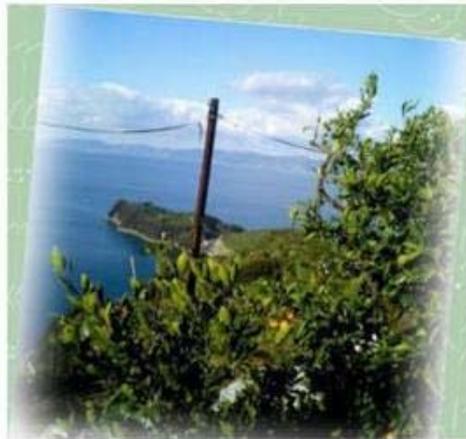
先月20日には南予出身の学生約40人を集めた「南予活性化」学生ミーティングを開いた。小松学長が「夏休みに南予の課題や現状を観察し、自分が出来ることをリストアップし、提出してほしい」と呼びかけた。

【古谷秀綱】

サテライト・オフィスの活動支援



愛媛大学南予振興塾 南予地域活性化総合セミナー 「南予地域活性化に何が求められるか」



愛媛大学は、愛媛県との協定により、南予地域活性化に取り組むため、平成18年8月に南予活性化対策協議会及び農学部にて南予活性化推進本部を設置しました。

今回、南予活性化推進本部にて「愛媛大学南予振興塾」を設置し、南予地域の各市町とタイアップしながら、農林水産業等の活性化策を探るため、本セミナーを企画・開催することになりました。

南予振興塾主催 南予地域活性化総合セミナー

※テーマをクリックすると詳細がご覧になれます。

日時	開催場所	テーマ		講師	コーディネーター
1月26日 18:30～21:00	八幡浜市役所	南予地域活性化と愛媛大学の役割		泉 英二	村田 武
1月27日 13:00～18:00	三崎公民館	佐田岬のツーリズム資源を見る			村田 武
2月22日 18:30～21:00	大洲総合福祉センター	地産地消を越えて —これからの農産物直販所に期待されるもの—		村田 武	藤原三夫
2月9日 18:30～21:00	内子自治センター	南予地域活性化と植物工場		山下 淳 仁科弘重	村田 武
2月16日 18:30～21:00	愛南町城辺社会福祉会館	科学技術まどのように水産養殖に貢献できるか		若林良和 三浦 猛 高木基裕	村田 武
2月23日 18:30～21:00	西予市中央公民館	これからのミカン産業にもとめられるもの		水谷房雄	村田 武
3月1日 13:30～16:00	鬼北中央公民館	南予地域活性化とバイオマス事業化		森田昌敏 脇本忠明	藤原三夫
3月9日 18:30～21:00	松野町町民センター	南予における定住促進について考える		中川聡七郎	村田 武
3月16日 18:30～21:00	宇和島市役所	宇和島のツーリズム型観光の可能性		高井昭平 村田 武 泉 英二	藤原三夫

資料9

愛媛大学サテライトオフィス・カトマンズ

<愛媛大学サテライトオフィス・カトマンズ>

サテライトオフィス
カトマンズの場所

サテライトオフィス室

Ehime University
Kathmandu Satellite Office

サテライトオフィスの前で
記念撮影

広報誌 Line 29号

平成18年6月、本学はネパールの主要5大学と学術交流協定を締結しました。「ネパール国防災技術総合開発計画会議」を開催するとともに、本学の「防災情報研究センター」では、ネパール主要国道の地滑り対策の共同研究を行っています。更に、ネパールの首都カトマンズにサテライトオフィスを開設するなど、国際的な支援体制を整え、防災情報研究センター及び国際交流センターを軸に、発展途上国の



ネパールとの国際開発協力支援を推進

国際開発協力支援を推進する実質的なネットワーク拠点として、目に見える国際貢献活動を実施しています。

今年6月には、この学術交流協定締結1周年を記念して、国際フォーラム「ネパール新国家建設に向けた取り組み」を開催しました。ネパール工科大学やトリブバン大学などの学長らが、同国の社会情勢について解説し、自然災害の現状などについて講演。また、本学を中心とした県内10団体でつくる「愛媛ネパール友好協議会」も設立しました。

